

## コラム

# ナチス発言と麻生副総理の真意

小林寿太郎

7月29日、東京、平河町で国家基本問題研究会（桜井よしこ理事長）が「日本再建への道」というテーマで会合を開いた。これに出席した麻生太郎副総理による不穏当な発言が、国内のみならず国際的問題となっている。

麻生氏は「ワイマール憲法もいつの間にかナチス憲法に誰も気づかないで変わったんだ。あの手口学んだらどうか」と発言したが、これは、ナチスの手口を学んで憲法改正しろ、と受け取られても仕方のない表現である。

全世界から批判、驚き、当惑の声が上がっている。またドイツ現代史についての知識のなさも指摘されている。

ナチスはワイマール憲法を改正するという手間のかかることは省略してナチス突撃隊による暴力的大衆運動によって労働組合などを壊滅させ、ヒトラーによる独裁を保証する全権委任法と言う簡単な法律をつくりワイマール憲法を死文化させたのである。

このような批判に対して麻生氏は「私の発言全部を見てもらえばナチス肯定ではないことは分かってもらえる。憲法について議論する場合、冷静かつ平穩にやる必要がある。」と弁明している。

私は、苦しい弁明と思いながらも麻生氏の発言全部を読んでもみると、趣旨はかなり混乱しているが真意はやはり本人の言う通りではないかと思うようになった。

国家基本問題研究会とは、石原慎太郎などが理事をやっている正真正銘の改憲キチガイ集団であり、安倍首相に8.15靖国参拝を執拗に追っている。

政治家が講演する場合聴衆の雰囲気に合わせてものなので、麻生氏もこの場合憲法改正断行などと叫んでも特に異常とは言えない。

ところが麻生氏は、こういう連中に暴走するんじゃないと必死になって説得しているように思える。

私の推測する麻生氏の本音を、麻生風ペランメー調で述べてみる。

「ここにいる連中は憲法改正と安倍首相による8.15靖国参拝を熱望しているけどそれはオレも同じだよ。マッカーサーが押しつけた占領憲法なんて早く廃止したいし、戦争で国のために命を捧げた方々に首相が8.15に参拝するのは当然だよ。

しかし、当然だからと言って周囲の状況を考えずに性急に事を運ぼうとすれば、必ず大混乱が起きるよ。

ドイツ現代史だってそうだろう。ワイマール憲法という今もなお高く評価されている憲法がいつの間にかナチス憲法（そんなのあったかな？）に変わってしまったし。要するにオレの言いたいことは良い憲法があっても現実の政治や社会が混乱したら、その良さも生かせないんだよ。

オレが学習院大学に行っている時に60年安保闘争というのがあった。安倍のじいさんの岸信介

が安保改訂とそれに続いて憲法改正をやるうとしたけど安保改訂しかできなかった。

ものすごい国民的反対運動と政治的混乱を招いたんだよ。

だからそれ以降憲法改正は、50年以上できなかったんだよ。

安倍が・法改正を悲願しているのはじいさんが出来なかったことをやりたいんだが、政治と言うのは安倍の個人的感傷でやるんじゃない。憲法改正したいとあせる気持はわかるけど、今やれば必ずあの時みたいな大混乱が起きる。

憲法改正を試みてもし失敗したら、今後60年は今の憲法だよ。だからオレは慎重にやれと言ってんだ。大混乱を引き起すくらいなら、憲法改正なんて提起しない方がいいんだ。」

この問題の本質は、ナチス問題ではなく、札付きのキチガイ改憲勢力と保守反動勢力の現実派との対立ではないかと思う。

麻生氏は今のところ安倍政権で最も有力な閣僚であるが、今後政治的立場は厳しくなると思われる。